

地域密着型サービス外部評価結果報告書

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会が実施した下記の事業所の外部評価の結果をご報告します。

この報告を貴事業所におけるサービスの質の向上に向けた取り組みの一助としてご活用いただき、地域における認知症等高齢者の生活・介護等の拠点として一層ご活躍されることをご期待申し上げます。

また、本報告書は、以下のような場面などでご活用ください。

- ・ 利用申込者またはその家族に対する重要事項等の説明
- ・ 事業所内の見やすい所への設置または掲示
- ・ 運営推進会議など関係者への説明

法 人 名	社会福祉法人 福井ゆうあい会
代 表 者 名	理事長 大瀧 毅郎
事 業 所 名	グループホームたぶのき
評 価 確 定 日	2020/10/15

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100637
法人名	社会福祉法人 福井ゆうあい会
事業所名	グループホーム たぶのき
所在地	福井県福井市大願寺3丁目3-6
自己評価作成日	令和 2 年 8 月 25 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和 2 年 9 月16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に入居されても「普通の暮らし」「当たり前の暮らし」をしていただくため、「入居者主体」ということを第一に考えて支援しています。食事は3食とも入居者の方に手伝っていただきながら手作りしています。食材、献立も入居者の方に話を聞き取り入れ、チラシを見ながら選んでいます。新型コロナウイルス感染症対策の為、外出頻度は減っていますが、持ち帰りや家族から頂いた大切な話、食材を生かし食事を楽しんでいます。職員も同じ時間を共有して介護をする作業の場ではなく、暮らしの場、信頼できる関係作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所には、特別養護老人ホームが併設している。民家風の色調で建てられた3階建ての1階に開設した事業所で、独自の理念を、職員全員で話し合い「普通の・当たり前の暮らし」とし、利用者主体の理念とした。理念を基に、職員一人ひとりが支援目標を立て、取り組んでいる。また、「過剰に薬は使わない」をテーマに掲げている。献立作り、食材の買い物、調理、後片付けに至るまで利用者の力を引き出す支援をしている。また、テレビをつけずに、一緒に会話をしながらの食事を心掛けている。行動が落ち着かない利用者には、症状の特性や行動パターンの把握に努め、見守り支援による利用者主体の支援を徹底している。併設の母体施設とともに、地域行事への交流に努め、地域との関係性を深めている。コロナ禍にあって、外出が控えているが、近くの神社への散歩がストレス発散や楽しみの場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人権の尊重と、自由な生活を実現できるように、会議やミーティングを通して話し合い、全職員が共有できるようにしている。	全職員で話し合い、事業所独自の理念を「普通の暮らし」「当たり前の暮らし」とした。職員会議での唱和、更に個別目標にまで落とし込み、全職員で共有、実践している。以上オンライン会議システムで見聞きた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の店に買い物に行く。神社の祭禮に参加する。地域の防災訓練に参加するなど、積極的に行っている。(2月から新型コロナウイルス感染症対策の為制限されている)	町内会に加入している。近所にある神社への散歩や買い物時に、地域住民とあいさつを交わすなどコロナ禍にあっても交流を大切にしている。又、地区の事業所が連携して、地域住民に対し介護講習・勉強会などを「縁側ミーティング」と題して定期的に行っている。3階ホールを地域住民に、開放している。以上オンライン会議システムで見聞きた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の他の事業所や地域包括支援センターと一緒に認知症について地域の方が勉強する機会を設け参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設の現状や取り組み、事故、ヒヤリ・ハット報告を随時行っている。参加者の方からいただいた意見も、参考にさせてもらっている。	2か月毎に会議を開き、利用者の状況報告等の議題中心に運営している。委員からは特にヒヤリ・ハット報告に対し、外部の人から見た質問や、意見に対し、説明しながら認知症や個別支援の重要性の理解が深まるよう努めている事をオンライン会議システムで見聞きた。	地域包括ケアシステムに係る事業所の役割を見据え、地域住民に事業所の役割・必要性を理解してもらうためにも、運営推進会議の参加構成員の拡充を期待したい。(例えば、婦人会・子供会・老人会等の代表者)
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際には地域包括支援センターの方に参加して頂いたり、意見を聞かせていただいたりしている。	地域包括支援センターとの連携は取れているが、市担当者とは必要に応じて電話連絡を取る程度に留まっている事をオンライン会議システムで見聞きた。	保険者である市との対応は、通常の報・連・相に留まらず、事業所の方から積極的に事業所の現況を伝えて行く姿勢が望まれる。(例えば年間実績・成果等事業報告、支援成功事例等サービス実践報告)
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については施設内外の研修会など、学ぶ機会を設けている。施設の玄関の施錠は防犯上、家と同じように19時30分過ぎから夜間帯のみ施錠している。	身体拘束防止対策は虐待防止対策と共に、勉強会、研修会を積んでいる。玄関は夜間のみ防犯対応のため施錠している。行動が不安定で、無届け外出の恐れのある利用者には、症状の特性や日常の行動パターンを把握した見守りによりリスク軽減を図りながら身体拘束をしない支援を徹底している。以上オンライン会議システムで見聞きた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待については研修会で学ぶ機会を設けている。言葉遣いなど常にミーティングの際に話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、対象になる方もいないので行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者のほうから説明をしている。その都度家族の方からの相談にも応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望があった際には、ミーティングや運営推進会議で報告、話し合いを行っている。	利用者の思いや意向は日々の関わりで汲み取るようにしている。家族には広報誌や手紙で利用者の暮らしの様子を伝えていると共に面会や通院の機会を通して話し合っている。その内容は運営推進会議でも報告し意見交換している。以上オンライン会議システムで見聞きた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで遠慮なく意見、提案がしやすいように努めている。ミーティング前には職員一人ひとりに意見、提案を提出してもらいミーティングを開いている。	管理者とは日々のやりとりで話もするが、毎月の会議で事前に意見・提案を整理し、話し合う仕組みを作っている。代表者との個別面談を年2回設け、職員は毎月の会議で解決出来ないことや職務のアピールが出来る。以上オンライン会議システムで見聞きた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課、職員面談で勤務状態の把握や、職員の意見を聴き、改善できる事はするように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修や外部の研修にも機会があれば参加するように促している。又、個別に介護福祉士の資格取得の為に勉強も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所との交流や、他事業所からの見学、研修の受け入れを行っている。外部研修に参加し交流も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する時点で、プライバシーの確保、入居者の状態の確認などを行っているが、入居者の本当の思いや不安な気持ちを十分に把握できていない可能性もあると感じている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に管理者が確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に管理者が確認をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に入居者中心と考え、「一緒に生活する」を心掛けている。買い物、料理、掃除などを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族の方に手紙を書き、活動内容や気になったことなどを報告している。又、面会に来られた際にも状態などをお伝えしている。家族の方の思いも聞くことを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会などは自由に行ってもらっている。(新型コロナウイルス感染症対策の為制限付き)入居者の希望される場所への外出なども自由に行ってもらっている。電話や手紙の遣り取りがある。	コロナ禍にあっても一貫して馴染みの関係を大切にきて来ている。感染症対策の為制限の中での支援だが、利用者本人の理解力の低下により関係が薄れてきている現状もあることをオンライン会議システムで見聞きた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係の把握を常に行っている。少しのめもごとは職員が間に入り話などを聴き、孤立しないように配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の特養に転居しても定期的に顔を見て安心していただいている。家族の方とも関わりを持ち安心していただけるようにしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	台帳作成やアセスメントを行い、情報の中から取り組みを行うようにしている。又、日常の会話、表情からも気持ちを汲み取るようにしている。	アセスメントや食事の時及び日常の関わりを通して利用者の思いを把握し、ケアプランにも反映するよう努めている。汲み取りにくい時は表情から気持ちを察するようになっている。以上オンライン会議システムで見聞きした。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、ご家族から話を聞き、台帳を作成している。また日常の会話の中からも把握するよう努めている。			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやミーティング時に他の職員の話を聞き現状の把握を皆で行っている。			
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を入れるように努めている。	計画作成担当者が利用者、家族の意向とケアチェック表によるアセスメントを基にして介護計画を作成し、ケアマネジャーが最終チェックを行いケアプランを作成している。月1回のモニタリングやケア会議で職員の意見を反映させていることをオンライン会議システムで見聞きした。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に記録を毎日つけている。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に考え特に予定などなくても、その日の状況で取り組みを行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ショッピングセンター、飲食店、博物館など地域の社会資源を活用し、楽しんでいただいている。(2月から新型コロナウイルス感染症対策の為に制限されている)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院はご家族の方をお願いしているが、家族に任せきりにせず本人の状態を伝えたり、医師に文書を渡し本人の状態を伝えていく。又、受診後は家族の方から結果を聴くようにしている。	家族の協力を得て、かかりつけ医への受診が継続できるように支援している。日々の生活状況を医師に報告してもらい、受診結果を家族から必ず聞き取りを行っている。家族の都合がつかない時は職員が同行支援することもある。以上オンライン会議システムで見聞きた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師は配置していない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を渡したり、定期的に病院へ行きご本人の様子を確認したりスタッフの方に状態を聴くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際には話をし、又、ご家族と面談を実施し認知症の進行状況の説明や重度になったときの対応について話をしている。	重度化、終末期の支援方針は入居契約時に話をしており、心身機能の進行状態に応じた説明も適宜行っており、最重度の利用者が直近に母体施設に入所したケースをオンライン会議システムで見聞きた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会は行っているが、全職員が実践力を完璧に身に付けているとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	まだ十分に対応できない。地域の協力体制も不十分。災害時受入れ施設になっているので、相手の施設との挨拶、電話等は行っている。	年2回、消防署の指導を受けながら火災想定避難訓練を行っている。職員は避難優先順位や方法、自治会長の応援があることも理解している。地震等の自然災害への備えとして3日分備蓄している。以上オンライン会議システムで見聞きた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症対応の原則を守り、入居者の方に対しては常に笑顔で、敬語での会話を心掛けている。	言葉遣いや声かけなどに配慮した、支援を心掛けている。利用者が自己決定できるような声掛けを心掛けている。職員が不適切な発言をした場合は、職員同士又は管理者が注意をしている。又、個人情報に関する書類作成や保管にも注意を払っている。以上オンライン会議システムで見聞きた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「できる、できない」の能力の前に「やりたい、やりたくない」の意思を聞いて決めていただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごす方もいれば、リビングで何か作業をされる方もいたり、外出していたりと、一人ひとり思い思いの事をされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	を活用		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の買い物、食事作り、後片付けを入居者の方と一緒にやっている。旬の食材の調理法、取扱いなど教えていただいている。	利用者と共に新聞のチラシを見て献立を決め、食材の買い物、調理、後片付けに至るまで利用者の力を引き出す支援を行っているが、職員も学ぶ事が多い。テレビはつけずに、一緒に会話を楽しみながらの食事を共有している。以上オンライン会議システムで見聞きた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量の記録を行い摂取量の把握を行っている。季節や状態に応じて好みの物、飲みやすい物をお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを個別に行ってもらっているが徹底はされていない。介助が必要な方は介助させていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間は特に決まっておらず、一人ひとりの排泄のパターンに合わせた支援、訴えに合わせた支援を行っている。	リハビリパンツ、布パンツ、尿とりパットを組み合わせた、一人ひとりの自立度に応じた支援をしている。排泄の有無は利用者本人からの訴えで確認するケースが多いことをオンライン会議システムで見聞きた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に果物を提供したり、ヨーグルトや牛乳、オリーブオイルなどを取り入れる。腹部マッサージを行う、簡単な運動を行うなど、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日などは決めておらず、毎日お風呂を沸かし、なるべく希望に添えるように配慮をしている。	週2回、午後からの入浴が基本で入浴剤やショウブ湯など季節を感じる支援を行っている。同性支援の有無など利用者の意思を尊重した支援を行っている。個浴とリフトの一体機能を備えた設備により、身体の変化に対応出来ることをオンライン会議システムで見聞きた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間は、バラバラでテレビを観たり、居室で過ごしたりと自由に過ごしてもらうようにしている。夜間は2時間おきに巡室を行い室温などの管理も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬をもらってきた際には薬剤情報をファイルに閉じ、全職員が目を通すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり好きな事をしてもらったりしているが、まだ入居者の方のやりたい事、好きな事があると思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物の他に天気が良ければ散歩や、ドライブ、外出などを行っている。(2月から新型コロナウイルス感染症対策の為に制限されている)	コロナの感染症予防対策で外出は控えている状況である。食材の買い出しや近くの神社への散歩などを心掛けている。コロナ禍の前は、一泊旅行や日帰り旅行など利用者の希望を叶える支援を心掛けていた。以上オンライン会議システムで見聞きた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設の方でお金を預かり買い物や外出の際には使えるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は自由に電話をかけている。手紙を書いている方もいるが、施設の電話を使いたい方は、職員に声を掛ければ自由に使用できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の「家」として考えた造りになっているが、緑が少なかったり、落ち着ける空間が少ないなど、設えがまだまだ足りない。	建物全体が民家風に造られており、廊下の一角や下足箱に植物の鉢が飾ってある。又、椅子やソファが至る所に配置している。利用者が、生活しやすい共用空間づくりをしている。以上オンライン会議システムで見聞きた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の一角に談話スペースを設け、いつでも座って過ごせるようにしている。一人でゆっくりとしたい時などは、居室や談話スペースで気の合う方同士で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒などはすべて持ち込んでいただくようにしている。テレビ、冷蔵庫、家具など一人ひとりの生活に合わせ持ち込んでいる。	居室には、使い慣れた家具等を持ち込み、整理整頓された居心地の良い空間になっている。冷蔵庫を持ち込んでいる利用者もあり、好みのお菓子・飲み物が入っている。冷蔵庫の管理は、定期的に家族が行っている。コロナ禍で、家族の面会がかなわない為、職員が家族・利用者の許可を得て、管理している。以上オンライン会議システムで見聞きた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家と同じようにリビングと廊下を扉で分けている。入居者の方も居室で過ごしたい時と、リビングに出てきて過ごしたい時とをしっかりとご自分の意思を持って生活している。		